



大森六中だより

令和3年 3月号
大田区立大森第六中学校
校長 松尾 廣文
TEL 3726-7155



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

第72回卒業証書授与式 式辞

校長 松尾 廣文

大森第六中学校での学びを忘れず、今後の成長を期待して、お話を致します。

卒業生の皆さんは、この三年間、ユネスコスクールの一員として沢山のボランティア活動に励み、地元や様々な国と地域の方々とのきずなを大切にしてきました。

駅前の花壇の整備、洗足池の清掃では、毎回多くの生徒が参加し、地域の環境美化に貢献をしました。

まちなか点検では、地域の方とともに、実践的な体験活動を行いました。

夏には、校内で育てたホタルの放流、そして、欠かさず水やりをして、省エネを目指したゴーヤカーテンを作り上げました。

また、国際交流としては、服のカプロプロジェクトによる難民キャンプの子どもへの支援、そして、皆さんが1年生の時来校されたモロッコのララ・ハスナ王女殿下の本校視察を始め、沢山の海外からの視察の方へも温かい心で、おもてなしをしてきました。

しかし、本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大という試練の年となってしまいました。

東京2020オリンピック・パラリンピックの延期ということも異例でしたが一学期の半ばに学校が再開ということも、今まで経験したことのない事態でした。

この影響で、今まで行われていた多くの行事が中止となってしまいました。

修学旅行の中止が決定したのが、7月の中旬でした。

中止を知った3年生が気がかりで、その時の様子を担任の先生たちに確認をしたのですが、生徒たちから、何か楽しいことを考えようという声が出ているとの話を聞き、いじらしくもありますが、その心意気を頼もしく思いました。

その後、3年生が中心になり、運動会の代替行事、スポーツ大会もできましたし、修学旅行で行く予定であった花巻農家の方々へのメッセージも皆さんの尽力で送ることができました。

只中止という選択もあったのですが、皆さんは、行動を起こし、今できることを行いました。

文化祭に関しても、その代替の紅葉祭を行いました。

緊急事態宣言下で六中生が落ち着いて行動できたのも、皆さんの前向きな姿勢が、下級生にもよい影響を与えていたのだと考えます。

コロナ禍の中で、今年が失われた一年とならないように、未来の六中へ行事が引き継がれるようにする、その橋渡しを皆さんが行ったと考えています。

困難に挫けず、前を向く。皆さんは、身をもって持続可能な社会を作るための行動を成し遂げた学年であると、この校

長は高く評価をし、誇りに思っています。

皆さんが、立ち向かう未来には、持続発展のために解決しなければならない課題がたくさんあります。

粘り強さをもって、苦勞、試練に臆することなく、雄々しく立ち向かってください。

1860、万延元年、日米通商条約の批准書交換使節の随行艦として、日本で初めて太平洋を渡りアメリカへと航海を果たした船の名前は、咸臨丸です。そして、艦長は、本校縁の勝海舟です。

咸臨丸は、途中、ハワイ経由で燃料や水の補給をし、38日間の航海を経て、サンフランシスコに到着しましたが、その間、天候の荒れた日が34日を数えたということです。

勝艦長自身、船酔いがひどい体質で苦しみながらの航海でしたが、幕府が乗船させていたアメリカ人ブルーク大尉たちの助勢もあり、苦難の航海を乗り越えたということです。

子母沢寛の小説では、咸臨丸はこの航海で、マストやエンジンを傷め、スクリューも傷ついていたと描かれています。

事実、この後、咸臨丸は二ヶ月近くの修理を必要としたと資料には記述があります。

長く、辛い航海を終えて、勝は、こんなことを言っています。

「彼の地では、土農工商の区別なく、商業、交易に従事していて、その生業に携わるものから官吏、すなわち政治家や行政官が生まれる。」

勝の眼に移った異国は、自由な国家であり、日本の世襲の武士階級はもはや近代にそぐわないという感を強くもったと思われます。

この見聞が、その後南州西郷隆盛との邂逅を経て、大きく歴史の歯車を回して

行きます。

苦難の航海の後に、得たものは、勝の生涯に大きな夢を抱かせました。

勝海舟縁の地で学んだ皆さん卒業生も、大きな夢をもち、例えそれが、困難を伴おうとも、覚悟を決め、粘り強く理想を希求する人であって欲しいと思います。

そして、願わくば、その「理想」は、万人の幸福を期し、この世界が、SDGsを達成し、これからも持続発展することを目指すものであることを望みたいと思います。

どうぞ、大森六中で培った知恵とそして、勇気を奮い起こして、人として恥じない生き方を歩んでください。

母校、大森第六中学校は、皆さんの活躍を心より、応援をしています。

終わりにになりましたが、保護者の皆様、この三年間、お寄せくださいました、本校へのご協力とご支援に、厚く感謝を申し上げます。

万感の思いと期待を込め、大森第六中学校 第72期卒業生の今後の活躍を祈念し、式辞と致します。

令和3年3月19日

大田区立大森第六中学校長

松尾 廣文

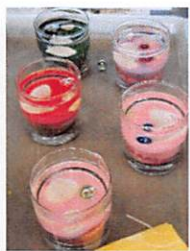
学習成果発表会

3月6日（土）学習成果発表会を行いました。総合発表を聞いた後、展示されている、各教科で学んだことのレポートや作品等を見学しました。子どもたちの日々の取り組み、学びの様子がとてもよくわかる1日となりました。



卒業遠足

3月9日（火）3年生は相模湖プレジャーフォレストへ卒業遠足に行きました。ジェルキャンドル作成と遊園地で仲間たちとの思い出を作りました。



卒業記念講演会

三戸呂拓也さんをお招きし山岳での体験と、仲間と協力することの大切さ、前向きに挑戦することについてご講演いただきました。



三年生を送る会

3月12日（金）、三年生を送る会が行われました。1、2年生から3年生へのメッセージ、3年生から1、2年生へのメッセージや色紙の贈呈など、短い時間ではありましたが、皆で三年生の卒業をお祝いしました。



持続可能な社会の担い手づくり

大田区立大森第六中学校 研修ユネスコ委員会

学習成果発表会

総合的な学習の時間発表

令和2年度学習成果発表会が3月6日(土)に無事終了しました。昨年度は新型コロナによる感染拡大防止で休校となり、学習成果発表会が中止になりました。今年度は是非実施したいと考え、早くから準備し、例年と違う形ではありましたが、作品展と同様、発表会を行うことができました。

準備期間も短く、一緒に集まる機会を短くしなければならなかったため、12月から構想を練り、代表者は自分のテーマを考え、原稿内容を何回も書き直し、パワーポイントで人に伝えるための工夫を行いました。リモートのため、顔は写らない発表でしたが、1、2年生は校長室からの発表で、かなり緊張したようです。一方3年生は、堂々とした発表でした。

1年生は「多様性を知る」2年生は「責任性を問う」3年生は「創造性を培う」をテーマに各学年8名ずつ24名が発表しました。

1年：「出会いから始まる人との関わり」「世界の情勢から何を感じたか」「人権について」「進級にあたり何を学び、何をしなければならないのか」
2年：「防災の観点から～まちづくり～」
「未来のまちづくり」「なるには～職業調べ」

「言葉の重み～アイアイメッセージ・留学生は先生～」

3年：SDGs 伝承プロジェクト～3年間の学びから～
「環境問題」「社会のしくみ」「経済の循環」
「文化の維持と向上」

六中での学びの集大成が、この学習成果発表会です。総合的な学習の時間の発表が、24名の代表者による、全校生徒、保護者の方の心に響くものになったと思います。



総合的な学習の時間の発表者

卒業記念講演会

六中では例年、年に3回の講演会を行っています。6月に開校記念講演会、1月にユネスコスクール記念講演会、3月に卒業記念講演会を行ってききましたが、今年度は、卒業記念講演会のみで開催になりました。3年生は体育館で、1、2年生はリモートで話を聞くかたちとなりました。

今回の講師の方は、3年前にも本校で講演をしていただいた三戸呂拓也氏です。世界中の山に登り、多くの経験を重ね、生きていく中で大切なことを、中学生の心に響くように話をさせていただきました。

コロナ禍においても、困難に立ち向かう勇気と希望をエールに変えて、生徒に送っていただきました。

来年度こそ平和で穏やかな、健康で活気のある学校生活を取り戻すことを祈っております。

